

## 内示出る！5月に日本に帰ります

私の仕事紹介（その21）

今年秋頃に本帰国かなと思っていたら、3月2日に内示が出て、5月1日付でJICA本部への異動が発令されることになった。異動は早くても7月だろうと思っていただけに、常日頃から日本に帰りたいと漏らしていた美澄も不意を突かれた格好で、準備どうしようかと慌てふためいている。さすがに残りの滞在期間が帰国準備を含めて2ヶ月半程度となると、やりたくてもやれないことがいろいろあり、今までもう少し有効に時間を使っておけばよかったと後悔しきりである。

## 3年目の駆け込み？来客多き2月

2月は美澄の知人の西村さん、岐阜の父母と義妹とそのお母さんがネパールを訪れ、プライベートでも来訪者のアテンドでなかなか忙しい1ヶ月となった。そんな中、週末を利用したドライブで、これまで行ったことのなかったゴルカやルンビニ、ティラウラコットを訪ねることができ、私達にとってもメリットの多い1ヶ月だったと思う。いずれも「地球の歩き方」ではさらっと書かれているだけの観光地であるが、テーマを持って訪れるにはかなり適した土地だと思う。

ルンビニは釈迦生誕地、ティラウラコットは釈迦が出家するまでを過ごした王宮の遺跡であり、仏教徒である父母のネパール観光の大きな目玉とすることができた。いずれも遺跡に過ぎず、動きに乏しいため、私自身はルンビニからティラウラコットに向かう農道から見たテライの風景の方が印象に残っている。また、大衆浴場からカラオケバー、畳の客室等、何から何まで日本式の「ルンビニ法華ホテル」も凄かった。日本の温泉に来ているような錯覚を受けたくらいである。

現在のシャハ王朝の出身地であるゴルカは、この1ヶ月の間に2回も訪れた。1回目の時は霧が濃くて、バザールから旧王宮に登ってもヒマラヤは全く見るができなかったが、2回目に訪れた3月2日は朝から快晴で、旧王宮からは西のアンナプルナ山系から東のランタン山系まで、ヒマラヤが連なって見えた。特にマナスル峰は絶景であり、カトマンズ近郊のドリッセルやナガルコットに匹敵するヒマラヤの迫力を感じた。旧王宮までの石段は適度な距離であり、樹生を背負っても登れるし、父母でも登れる。また、ゴミだらけのカトマンズの町並みを見慣れているだけに、ゴルカバザールにゴミが殆ど落ちていないのが余計に印象的だった。

父母一行は、ドリッセルでは曇天、ナガルコットトレッキングは雨天中止、三度目の正直でマウンテンフライトでエベレストを見れた。ゴルカは、いわばドリッセル、ナガルコットの雷撃戦で、ポカラを案内しなかった分の代替案として、ヒマラヤの絶景を存分に堪能していただくことができ、これで少しは親孝行できたかなと私自身も満足している。（浩司）

## おじいちゃんにありがとう

樹生君の近況報告（その3）

8ヶ月のボクは2月もとてもげんきだったよ。岐阜のおじいちゃんおばあちゃんがきてくれて、いっしょにあそんでもらったんだ。みんなでくるまののってりょこうにいったときも、ママとおじいちゃんにかわるがわるだいてもらえて、とってものしかったんだ。とってもいいおてんきだったので、ちょっとあつくてつかれちゃったけどね。おじいちゃんおばあちゃんがかえっちゃって、さびしくなっちゃったな。でも、パパとママといっしょにもうじき日本にかえられるから、そのときはまた岐阜にいったおじいちゃんおばあちゃんとあそんでもらおう。はやくあるけるようにならなくちゃ！（みきお）

## 人の命は怪我より軽い？

以前、ネパールでは人の命が交通事故の治療費よりも安いという雑誌の記事を見かけたことがある。それを象徴するような事件が1月22日にテライのジャナカプール市で起きたので紹介したい。

長距離バスの運転手が誤って学生をひいた。この運転手、ご丁寧にさらにバックして負傷していた学生にトドメの一撃を加えた後、バスを捨てて逃亡してしまった。この事件を知った地元の学生達は、激怒して長距離バスに放火し、数台のバスを燃やした。このため、ジャナカプール一帯は緊張状態に陥り、テライ東部方面の長距離バスは全て運行停止し、ダイヤは大幅に乱れた。警官隊と衝突した学生数名は逮捕された。翌23日、学生側とバス会社側が警察において話し合いを持ち、逮捕された学生は釈放され、バスも運行再開し、この騒動はひとまず終息した。

この事件からわかることは、（1）人をはねた運転手にとって、負傷者を生かしておくことは死なせること以上に費用がかかる、（2）ネパール人、特に若者はかっとなると前後の見境がなくなる、（3）だからダメもとても取りあえず運転手は逃げようとする、ということだ。私達も、人をはねたらひとまず逃げろと言われてる。

実は今から2年前の2月のある夜、私と美澄はカトマンズに届いたばかりのセレスを運転していてカリマティ橋の上で群衆に取り囲まれたことがある。ひき逃げに遭った女性をビル病院まで送り届けて欲しいと頼まれたが、ビル病院の住所も気が動転していたネパール人の話す言葉もわからず、焦りながらも病院を探し出し、緊急治療室に負傷者を運び込んだ。車のエンジンを切った瞬間負傷者の呼吸が止まった時には血が凍り付いた。さらに近くにいた警官からはキツイ一言、「お前がやったのか？」ひき逃げ直後に現場に通じかかるとろくな事はない。事故と無関係なのにたまたま通りかかって焼き討ちに遭ったバスにはご愁傷様と言うより他にない。あなたの気持ちはよくわかる！（浩司）

内々示(2月26日)は不意打ちだった。JICAの組織業務改革を推進する部署だそうで、かなり帰りが遅くなるとも聞いているが、それでもこのニュースに多少の喜びを感じたのは、今の自分が業務過多でパンク寸前の状態だと自覚しているからだと思う。私はあまりサンチャイ通信上で弱音を吐いたことはない。そんな自分でさえ2月は苦しいと思った。

2月の私の仕事は4本柱から成り立っていた。(1)開発福祉支援事業立上げ準備、(2)事務所広報用パンフレット改訂、(3)3月予定の専門家養成研修の準備、(4)国別評価セミナー準備。以上からもわかる通り、2月は殆ど「準備」という仕事をやっており、「結果」を残せたのは2月27日開催の国別評価セミナーを成功裏に終了させたことくらいである。つまり2月は助走期間でしかなく、結果を残す達成感が得られないだけに余計に疲れがたまった。

(2)(3)は既定のスケジュールに沿って仕事をこなしていけば結果は得られるからまだいい。しかし、(1)については、事業実施に伴う制度の整備が不十分な状態でアイデアだけが先行し、そのついでを事務局が払われた格好で、本部に言いたいことが沢山ある。今書いても愚痴になるだけなので、苦勞話として事業立上げ後に披露したいと思うが、はっきり言って、(1)があったからこそ、異動によって本件担当から外れることがラッキーとさえ思えたのである。

残りの任期の関係上、今後の「私の仕事紹介」で成果を紹介できるよう、頑張りたいと思う。(浩司)

## セレス、ハイウェイを駆ける

### ゴルカへのツーリング

2月14日(土)、我が愛車セレスが初めてカトマンズ盆地を出て、プリティビハイウェイを西にひた走った。

このハイウェイは、盆地の西端のタンコットから外輪山の麓のノウピセに至る峠越えの険しい道がつい最近まで舗装されておらず、セレスにとって最大の難関と思われた。勿論、セレスとてカルカタで陸揚げされた後、この道路をひた走ってカトマンズに到着したわけで、無理すれば走れないことはなかったが・・・昨秋、ここの舗装がようやく完成したのを確認できた。機は熟した。美澄の友人が遊びに来るのを良い機会に、車でゴルカまで行ってみようということになった。

峠を越える瞬間は、この2年間におけるネパールの道路の整備に改めて感動した。クリシュナからバトンタッチして自らハンドルを握った時は、赴任後初めてシフトを5速に入れて70km/hでドライブした。この日はガソリンスタンドがスト決行中で、交通量が少なく、ワインディングロードをレーシングカーみたくアウトインアウトで駆け抜けた。少し怖かった。ネパールでの70km/hは、前方の石や穴凹を識別回避するには少し速過ぎる。それでも追い抜いて行く車がいるのは驚きだったが、愛車でもここまで遠乗りもできることがわかり、新境地を開いたゴルカへの旅だった。(浩司)

## 私が見ていきましょうか?

### 子供好きなネパール人

ネパール人は子供好きです。私達が樹生を連れて歩いていると、よく、赤ちゃんを抱かせてくれとネパール人が寄ってきます。また、レストランで樹生をなだめすかしながら食事していると、たいてい「赤ちゃんを見ていきましょうか?」と声をかけてくれます。それは女性だけでなく男性も同じです。先日ドゥリケルに宿泊した際も、私達が食事をしている時ウェイターさんが樹生を抱いてあやしてくれました。あやし方も慣れていて、樹生は時々笑い声をあげて喜び、厨房の方に連れて行かれても平気で、逆にこちらに返してくれないのではないかと不安になるぐらいでした。日本ではこんな風に子供に積極的に接しようとするのは、特に男性にはないので新鮮な驚きです。(美澄)

## 鼻折れてるのか?

### 容姿を気にするネパール人

先日友人を連れてゴルカに行った時のこと、ゴルカの旧王宮への道を登っていると1人のお婆さんが樹生を見て、「鼻が折れているのか?高くなるようにひっぱんなければダメだよ。」と言ったのです。確かに樹生の鼻は私に似て低く、コックのナヌさんにも、鼻をひっぱれば高くなるからひっぱった方がいいと言われていました。その他にも、「頭の後ろが引っ込んでいる(後ろが絶壁で横の方が張っている)。男の子は帽子を被るから(ネパールの男性はたいていトピーという帽子を被っています)1ヶ月ずつ片側を下にして寝かせた方がいい。」とか、「眉におっぱいをつけて整えると眉の形が良くなる。」など、容姿をいかに良くするかを色々教えてくれました。実際ネパール人は子供の見栄えを良くするために色々やるようで、岐阜の両親一行を連れてルンビニに行くときに利用したレンタカーのドライバーも「ネパールでは朝晩油をつけて鼻をひっぱるんだ。」と言っていたし、日本以上に容姿を気にする人々のようです。(美澄)

## 編集後記

◆父母一行のネパール訪問が滞りなく無事終了し、祭りの後の静けさが残っています。父母には樹生をととても可愛がっていただし、大変感謝しております。また、今回の旅を父母が決断実行できたのも、同行していただいた義妹のきょんちゃんとお母さんのお陰だと思います。本当にありがとうございました。2月は、仕事の面でも非常に厳しい1ヶ月でしたが、そんな中でも時間をやりくりし、公私ともに最高のパフォーマンスを示すことができました。残る任期は約2ヶ月。積み残しの仕事はこれからが本番であり、フィナーレに向けて最後の追い込みの時期を迎えます。帰国の準備は勿論のこと、胸を張って帰国するには確固たる結果を残しておきたいものです。(浩司)

◆2月は1月以上に色々なことがあり、忙しいうちに終わってしまいました。樹生もこの1ヶ月で、バイバイをするようになったり、7ヶ月の終わりにつかまり立ちをするようになったり、上の歯が2本生え、成長しているのを感じさせます。お客さんも2組あり、一緒に観光してネパールの新たな発見もしました。そして義父母達がいる間に知らされた帰国の内示には正直言って驚きました。時々帰りたいたいと思っていたとはいえ、いざ帰国時期が2ヶ月半後となると寂しくなります。これからあまり時間がないので、上手に使っていききたいと思います。(美澄)